

6 議 事

(2)教育委員会が考える「ゴール」について

- 教育委員会としての「コロナ禍後の不登校対策のあり方」
 国：『不登校は問題行動ではない』『必ずしも学校復帰を求めない』
 法：特例校整備、支援室の充実、学習状況の把握
 児童生徒・保護者への情報提供
 市：原因を探るよりも、その子にあう学び・居場所の選択肢を増やす
 「これから何ができるか」を未来志向で考える

6 議 事

(2)教育委員会が考える「ゴール」について

- 不登校特例校の設置 ・ 教育支援室の充実
 誰が何のために通う・集う場所とするのか？
- フリースクールや市民センター等の「サードプレイス」
 学校以外の「居場所」～子どもたちが安心できる場所にできるか？
- どのともつながっていない子どもたちの選択肢になるために
「未来へのとびらオンライン教育支援室」を活用して「つながってみる」

6 議事

(3)ニーズ調査の手法・調査内容について

- アンケート① ~広く浅く 一人一台端末で 選択肢式
「自分のことが好きか」「自分は人の役に立っているか」「なりたい姿があるか」
- アンケート② ~少し踏み込んで QRコードで対象を絞って 一部記入式
ステップアップルーム利用者、教育支援室利用者、未来へのとびらオンライン参加者
- ヒアリング ~さらに踏み込んで 個別聞き取り
親の会、フリースクールに協力要請 卒業世代も対象に体験談からヒントを

6 議事

(3)ニーズ調査の手法・調査内容について

- アンケート②
対象者(案): ステップアップルーム(保健室、校長室等含む)利用者
市内4カ所の教育支援室利用者
未来へのとびらオンライン教育支援室参加者
調査手法 : 令和5年度の上記施設利用者に協力を依頼
小学生向け・中学生向け(一人一台端末から回答)
保護者向け(スマートフォン等から回答)

6 議事

(3) ニーズ調査の手法・調査内容について

- アンケート② 主な質問項目(案) ～中学生向け

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1)教室以外に通いはじめたのはいつか | (6)今の学校以外で通いたい場所があるか |
| (2)きっかけは何か | (7)フリースクールを知っているか |
| (3)今の登校ペースはどうか | (8)特例校ができれば通いたいのか |
| (4)今心配していることは何か | (9)その理由(期待していること)は何か |
| (5)自分のクラスに通いたいのか | (10)今の自分にどんな場所があるとよいか |

6 議事

(4) 今後の会議の進め方について

<第2回会議 11月頃>

- 軸に据えるべき取り組みは何か ～アンケート結果から
- 教育委員会で「できること」と「できないこと」

<第3回会議 1月～2月頃>

- 取り組みの具体例(特例校・居場所・環境づくり)について
- 実現へのスケジュール(案)

令和6年度以降に向けた

7 今後の進め方について(案)

- 令和5年度内 不登校対策の今後の方針(案)策定
- 特例校 設置・整備方針を検討し、設計に着手 文科省申請
- 居場所 市民センター等での居場所づくり「手順書」作成
地域向け研修企画
- 情報発信 お子さんが学校に行き渋った時に読む資料や、
不登校経験者の体験を発信するツールの作成 など